

自然の厳しさをみんなで助けあい恵みを分かちあう  
里山の暮らし。一人一人がバラバラなのではなく  
みんなつながっているんだな。

大きな街では感じたことのないあたたかい感覚に  
包まれるソミヤでした。

うらの元に帰ったソミヤは出会った人々の暮らしを  
夢中で話しました。

「わたし、ここの暮らしが気に入ったわ！  
ゆっくりかもしれないけど、自分にできることが  
きっとみつかると思う」

うらは喜んで言いました。

「うれしいわ、ソミヤ！  
あたしもここの自然が大好きよ。  
子育ても安心してできそう。  
頼りになる仲間も  
いっぱいいるし！」

